

## 5. 避難時の心得

### 避難所等への避難は早めに！

避難所への避難は、できる限り単独行動はせず、2人以上で避難しましょう。

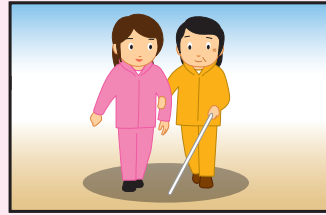
#### 動きやすい服装で！

動きやすい服装で、必要最低限の荷物を持って避難しましょう。長靴では水が入ると動きにくくなるので運動靴で避難しましょう。



#### 助け合って避難を！

高齢者や身体の不自由な方と一緒に避難するときは、背負ったり、ひじにつかまってもらったりして誘導しましょう。



#### 避難に自動車を使わない！

道路が冠水するとエンジンがとまるおそれがあります。徒歩での避難を心がけましょう。



#### 夜間の避難は危険！

やむを得ず夜間に避難しなければならなくなったときは、転倒や側溝への転落に十分注意しましょう。

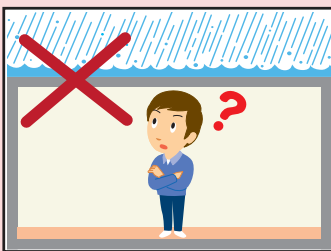


### 避難時の危険箇所

注意すべき場所を日ごろから確認しておきましょう。

#### 地下は危険です

半地下住宅では雨が降り始めたらすぐに上階へ避難するようにしましょう。地下は地上が冠水すると一気に水が流れ込んできますが、地下室では外の様子がわかりません。



#### マンホールや水路の周辺

道路冠水時には足元が見えないので、マンホールの蓋のズレによる落下や水路への落下に十分注意しましょう。



#### 地下道や地下歩道

地下道や地下歩道は、浸水時には周辺から水が流れ込んで冠水するおそれがあるので立ち入らないようにしましょう。



#### がけ地

がけは、大雨が降ると崩れるおそれがあるため、大雨時に近づくのは危険です。また、がけの近くに住宅がある場合には、早めの避難を心がけましょう。



### 逃げ遅れたら

浸水が始まり、立ち退き避難が危険と感じた場合は、自宅や近くの建物の2階以上に避難し、水が引くのを待ちましょう。

また電話や懐中電灯などで居場所を知らせ、救助を待ちましょう。

